

2 地域の将来像（20年後に実現したい姿）

中丹地域の20年後（令和22（2040）年）を展望するとき、最大の課題と見込まれるのは、人口減少への対応です。そのため、自然、歴史・文化、交流基盤、産業、暮らしなど前述の中丹地域の特性を踏まえ、地域の将来像を次のとおりとしました。

～ 心つながる田舎の魅力と都市機能の両方を享受し、

海・里山・まちを舞台に 求める暮らしが実現できる地域を ～

具体的には、次のような地域をめざしていきます。

- ・コロナ禍によるテレワークや地方移住の広がりなどを踏まえ、「田舎暮らし」「まちなか暮らし」「二拠点居住」など、この地域の強みをさらに生かして、一人ひとりの事情と希望に応じた多様なライフスタイルが実現できる地域
- ・農林水産業から製造業、サービス業まで様々な産業が活発に行われ、働き方も自営から就業まで幅広い選択ができる地域
- ・コロナ禍で再認識された家族や社会の繋がり的重要性を踏まえ、Uターン等により若者がしっかり地域に定着し、子どもから高齢者まで住民が生き生きと暮らす、人にやさしい持続可能な地域

なお、新型コロナウイルス感染症により、社会のあり方や日常が一変したように、20年後に国際情勢、社会経済情勢、自然環境等がどのように変化し、社会がどうなっているかを正確に認識することは困難ですが、次のような未来予測としていわれている事象に留意していく必要があります。

- ・ヒト・モノ・情報等の交流が地域や国境を越えて活性化するなどグローバル化の進展
- ・技術革新の進展（AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）、IoT（モノのインターネット接続）等）による社会のスマート化を背景とした、産業分野や暮らしでの活用への大きな期待
- ・価値観やライフスタイルの多様化
- ・少子高齢社会・人口減少の進展による地域の産業や社会基盤、地域コミュニティを支える

人材の不足と「共助」の重要性増大

- ・集落機能維持が困難な地域の増加と地域内の移動手段確保の重要性増大
- ・人生100年時代の到来による高齢者世帯、特に高齢者単身世帯の増加
- ・社会資本の老朽化の進行
- ・想定を超える規模の自然災害の頻発化（大規模地震、気候変動の影響による極端な降水の増加等）